

学校教育目標	「大地に根をはり、共に伸びよう、天までとどけ」 ～わたしもぼくも みんないい 一人ひとりのよさや可能性を引き出す教育を推進します～ (知)【すすんで学ぶ子】 問題解決に向けて、主体的に粘り強く取り組む子 (徳)【みとめあう子】 より良い自分を目指し、自分や他者を大切にすること (体)【たくましい子】 心と体の健康に関心を持ち、自ら進んで体力・健康づくりに取り組む子 (公)【あいさつする子】 集団や社会の一員としての自覚と責任を持ち、人のために喜んで行動する子 (開)【チャレンジ上矢部】 新しいことに進んで関わり、夢や希望をもってチャレンジする子				
	創立 45 周年	学校長 鈴木 則男	副校長 杉本 泰輔	2 学期制	一般学級：18 個別支援学級：12
学校概要	児童生徒数： 618 人 主な関係校： 岡津中 岡津小 秋葉小				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	岡津中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <言語能力>	岡津中学校 岡津小学校 上矢部小学校	主体的に自分の想いを表現できる子ども 主体的な表現力を育成するための合同授業研究会の推進 及び 体験活動を通じた児童生徒交流の推進 ・子ども会議にむけて定期的な話し合い交流 ・同期間における小中合同あいさつ運動の実施

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの子どもがつながりを大切に豊かなかわりの中で安心して学校生活をおくることができるようにする。 ・1年目 わくわく感を大切に日々の授業を大切に育てます。 ・2年目 子どもの表現を大切にしながら伝え合う力を育てます。 ・3年目 思いを伝え合うことで自分の考えを深めることができるようにします。 ○阿久和川美化活動など地域のつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。 ・3年間を通して、子どものまちへの思いを引き出し、豊かな体験から自己有用感をもてるようにします。 ○日々の観察とデータを活用しながら、子ども一人ひとりの変化を捉え、学びの充実に生かします。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善(生きてはたらく知)	<ul style="list-style-type: none"> ①算数科を中心に、主体的に自分の思いを表現できる子の育成を図る。研究1年目、授業研究会や研修等を実施する。 ②教材研究を充実させ、教科分担制を取り入れながら多くの教員による学び合いの環境づくりを整え、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。 ③状況に応じて効果的にAIドリル、ICT機器を活用し、主体的に学ぶ姿勢と基礎基本の定着を図る。
徳 人権・道徳教育(認め合う心)	<ul style="list-style-type: none"> ①「道徳の時間」の指導を生かし、より良い自分を目指し、自分や他者を大切に育てる。 ②たてわり活動やペア活動など異学年との関わりを大切に、多くの人と触れ合い、認め合う活動をする。 ③人権週間の取組を軸に「よいところみつけ」の行い、誰もが安心して学校生活を過ごす取組をする。
体 健康教育	<ul style="list-style-type: none"> ①子ども一人ひとりが体力・運動能力調査などから規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培う。学校保健委員会などの取組を通して家庭と連携しながらよりよい生活習慣の定着を目指す。 ②なわとび集会やスタスタタイムなど定期的に楽しく体を動かす機会を設定し、日常的に運動に取り組む態度を養う。 ③給食委員会などの活動を通して食育について関心を高める活動を行う。
公開 自分づくり	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもたち自らが地域と繋がることを大切にして、地域で体験的に学ぶ機会を設け、他者との関わりの中で自分の思いを表現し自己有用感を高めるようにする。 ②「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、子ども自身の変容や成長を自己評価できるようにする。
いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ①「上矢部小いじめ防止基本方針」に基づき、組織的な情報の共有、対応の充実を図る。子ども会議などで話し合った意見を子ども自身が発信し一人ひとりが安心して生活できるようにする。 ②いじめ防止対策委員会(毎月)を実施し、案件の経過確認を丁寧に行い、再発防止に努め、いじめ防止研修などで意識を高める。 ③毎日の健康観察や児童アンケート等により些細な変化を見逃さない体制づくりを行う。
人材育成・組織運営(働き方)	<ul style="list-style-type: none"> ①キャリアステージに応じた目標を設定し、学校組織が効率よく機能できるようにする。 ②校内研修やメンター研修に多くの職員が関わり、学び続ける教職員としての教師力向上を図る。 ③ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、組織的な働き方改革につなげる。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ①特別支援コーディネータを中心にコンサルテーションなど専門機関と連携、研修の機会を設け、教職員の特別支援教育に対する理解を深め、効果的な支援・指導につなげる。 ②居心地の悪さや過ごしづらさなどで授業に参加できない状況にないか、常に教育活動を見直し、子どもの思いに寄り添いながら誰一人取り残すことなく、授業に参加できるように取り組む。ICTの効果的な活用について全教職員で検討し、共有する。b7
防犯・安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ①年間を通して登下校指導を行い地域・保護者と協力しながら防犯・交通安全に取り組む。 ②定期的に地域へ見回り、見守り活動を行い、交通安全に対する意識を高め児童の意見も取り入れながら指導に生かしていく。 ③小中合同での引き取り訓練を実施し、地域防災拠点との連携を図る。
児童生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ①定期的に児童理解の時間を設け、情報共有し、教師一人ひとりが自分ごととして児童理解・児童指導に関われるようにする。 ②児童理解ノートを活用し、指導の継続、未然防止に役立てる。 ③「上矢部のやくそく」は現在の実態に即しているかを検討し、統一した学級指導を行い、専任を窓口とした組織的な指導体制を大切にする。 ④不登校児童の思いに寄り添って学習の支援の在り方を探り、ICTも活用しながら学びが継続できるようにする。
教育環境整備 GIGA推進	<ul style="list-style-type: none"> ①校舎内の教育環境を見直し、職員作業を通して働きやすい職場づくりと組織改善を図ります。 ②GIGA構想に関わる役割を明確にして、機器整備を行うとともに、一人一台端末の効果的な活用方法の実践に取り組む。 ③外部機関とも連携しながら情報モラル教育に取り組む。
担当	情報教育